

## 第8回学校再編計画策定委員会 記録

- 1 日 時 令和2年12月17日(木) 13:30~16:20
- 2 場 所 牧之原市役所相良庁舎4階大会議室
- 3 参加者 9人出席(1人欠席)  
島田桂吾、横田恭子、櫻井真弓、石神綾子、服部真和、種茂和男、赤堀康彦、増田ひとみ、良知恵里香(順不同・敬称略)

### 4 概要

#### (1) 計画素案についての市民意見聴取について

- 前回と対象者を変えて意見交換会を実施。40歳代以下の市民又は中学生以下の子どもの保護者を対象とし、参加者を指定しない。
- 会場全体が100人までになるようにする。(収容人数内)
- 併せてインターネットを介しての意見募集も行う。
- 時期、回数は再調整。
- ZOOM等のオンライン同時開催は可能性を探る。
- 中学生、保護者に対してまきはぐを使ってアンケートをとる。
- アンケートをまきはぐだけで出しても見てもらえないので、幼稚園、保育園の先生を通して周知をしてもらう。

#### (2) 計画素案について

##### ○ 考え方・表現

- コミュニティ・スクールは新しい学校づくりのポイントになる。10年後の牧之原市の学校は、学校だけでなく、みんなで決めるスタイルとなる。10年後にいきなり始めるのではなく、今から始めているので、コミュニティ・スクールについては、素案にも分かるように盛り込む。
- 再編計画の素案なので、決定的でない要素も入れてまとめる。委員会としては、この表現を残したい、ここを強調したい、ということを取捨選択した素案にする。市民意見をもらうための資料の検討も必要。(次回検討)
- あまり細かい内容を載せても読むのが大変でポイントが分かりづらい。市民に意見をもらうのもこれでは大変ではないか。素案はポイントをまとめたものにする。
- 各項目の言いたいことを簡単な理由を書いて、2~3行くらいで端的にまとめ、字体を変えるか、枠などを付けて目立つようにする。その下に補足説明を入れる。濃淡をつける。

- 校地選定の考え方は、3行では言えない。学校施設は、児童生徒が安心して学べることを最優先し、そのため津波浸水想定区域外であり、各種災害に安全な施設とする。場所の条件の1番目は、津波浸水想定区域外であること。2番目は子どもたちの通いやすさ。できるだけ多くの児童生徒が徒歩又は自転車で通うことができる場所とする。3番目に、周辺の道路状況等も考慮し、都市計画とも連携を図り、校地を選定してほしい。今後の選定にかかる部分については、委員会の意向を整理し、言い切りたいところはポイントをまとめる。少し項目によってまとめ方を変える。
- 地頭方小学校と牧之原小学校の関係について、具体的にいろいろ議論したことをどう文章にするか。地頭方小学校区について、地頭方からの反対はあまりなかったが、表現にはもう少し配慮が必要。
- 場所によっては、交通、電気、ガス、上下水道等インフラにかかるので、そこに配慮する事項に入れる。
- 子どもたちの学びの充実は、ICTだけでなく、これから進めていきたい牧之原市の学びをもっと入れる。学校像の部分をもっとイメージできるようにしたい。
- 時期的な表現は配慮事項とし、「なるべく早い時期に」、「時間を掛けて」、などの表現とする。

## ○ 配慮事項

- 放課後の居場所づくりは「子どもへの支援」に入れるか、別項目として立てる。
- 子どもたちの支援については、特別支援教育にも触れた方がいい。
- 通学路及び通学方法については、「市民の負担が減るように検討する」など入れる。
- 地域性について書いてある項目に、コミュニティ・スクールについて書き込む。
- 民間力の活用は、施設整備手法の1つとして検討とする。
- 既存施設の利活用等の検討は、もっと専門的に、目的をはっきりさせる必要がある。
- スケジュールのところには、校舎建設の流れの部分に、設計からではなく、場所、整備手法の検討が学校再編計画策定のところに入ってくることを見えるようにする。跡地、既存施設の利活用検討委員会を並行して考えることも見えるようにする。